

1. 総論

【総括判断】「管内経済は、緩やかに持ち直している」

項目	前回（4年7月判断）	今回（4年10月判断）	前回比較
総括判断	緩やかに持ち直している	緩やかに持ち直している	→

（注）4年10月判断は、前回7月判断以降、足下の状況までを含めた期間で判断している。

（判断の要点）

個人消費は、緩やかに持ち直している。生産活動は、供給面での制約もあって、持ち直しのテンポが緩やかになっている。雇用情勢は、持ち直している。

【各項目の判断】

項目	前回（4年7月判断）	今回（4年10月判断）	前回比較
個人消費	緩やかに持ち直している	緩やかに持ち直している	→
生産活動	供給面での制約もあって、持ち直しのテンポが緩やかになっている	供給面での制約もあって、持ち直しのテンポが緩やかになっている	→
雇用情勢	緩やかに持ち直している	持ち直している	↗
設備投資	4年度は前年度を上回る見込み	4年度は前年度を上回る見込み	→
企業収益	4年度は減益見込み	4年度は減益見込み	→
企業の景況感	「下降」超幅は縮小	「下降」超幅は縮小	→
住宅建設	前年を上回る	前年を上回る	→
輸出	前年を上回る	前年を上回る	→

【先行き】

先行きについては、ウィズコロナの新たな段階への移行が進められる中、各種政策の効果もあって、景気が持ち直していくことが期待される。ただし、世界的な金融引締め等が続く中、海外景気の下振れが我が国の景気を下押しするリスクとなっている。また、物価上昇、供給面での制約、金融資本市場の変動等の影響に十分注意する必要がある。

2. 各論

■ 個人消費 「緩やかに持ち直している」

業態別にみると、家電販売は、テレビなどが低調であり、前年を下回っている。ホームセンター販売は、インテリア用品などが低調であり、前年を下回っている。コンビニエンスストア販売は飲食料品が好調となっており前年を上回っている。ドラッグストア販売は、新型コロナウイルス感染症の抗原検査キットなどが好調となっており前年を上回っている。乗用車販売（新車登録・届出台数）は、普通乗用車、軽乗用車が好調であり、前年を上回っている。このように、個人消費は、全体では、緩やかに持ち直している。

（主なヒアリング結果）

- 猛暑の影響でエアコンが大幅に伸長。オリンピック需要の反動減としてテレビが低調となっている。（家電量販店）
- 外出制限緩和による巣ごもり需要の減退や、物価高による節約志向の高まりにより、インテリア用品やDIY関連用品が低調となっている。（ホームセンター）
- 夏休み期間は県外からの来客が多くみられるなど客数が前年に比べて増加し、行楽需要により、おにぎり、調理パン、ファストフードが順調に推移。（コンビニエンスストア）
- 新店出店効果やリニューアルによる品ぞろえの充実により来客者数が増加している。また、新型コロナウイルス感染症第7波の影響を受け、解熱鎮痛剤、抗原検査キットなどの売上が伸長している。（ドラッグストア）
- お盆の帰省需要で広島県産の土産物が好調だったほか、速乾・冷感等の機能のついた機能性の高い衣料や、ラグジュアリーブランドも引き続き好調となっている。（百貨店）
- 行動制限がなかったことに加え、新型コロナウイルス感染症による外出への抵抗感が減少していることもあり、お出かけ関連商品の外出着、スニーカー、トラベルキャリーケース等が好調となっている。足下では10月1日からの値上げを前に酒類や生活用品の駆け込み需要もみられた。（スーパー）
- 半導体不足によるメーカーの生産調整が長引いており引き続き納期に遅れがみられるものの、受注は堅調に推移している。（自動車販売）

■ 生産活動 「供給面での制約もあって、持ち直しのテンポが緩やかになっている」

輸送機械は、半導体不足の影響が続いているものの、上海市のロックダウン解除以降、生産が回復していることから、増加している。一方、化学は、海外のインフラ向けなどで需要に弱い動きがみられることから、減少している。電気機械は、スマートフォン向けなどで需要に弱い動きがみられることから、減少している。鉄鋼、汎用・生産用・業務用機械は、自動車向けなどで需要回復の遅れがみられることから、減少している。このように、生産活動は、全体では、供給面での制約もあって、持ち直しのテンポが緩やかになっている。

- 半導体不足の影響が依然として続いていることから、フル生産とはなっていないものの、上海市のロックダウン解除以降、生産が回復している。（自動車）
- 引き続き高操業を維持しているものの、中国の市況悪化により、中国のインフラ向けで需要に弱い動きがみられることから、生産量は減少している。（化学）
- 高い生産水準を維持しているものの、中国のスマートフォン向けなどで需要に弱い動きがみられることから生産量が減少している。（電気機械）
- 半導体不足等により、国内自動車メーカーからの受注が完全に戻っていないため、生産量は減少している。（鉄鋼）
- 家庭用品向けの需要は堅調なもの、自動車向けの需要が完全に回復していないことから、生産量は戻っていない。（生産用機械）

■ 雇用情勢 「持ち直している」

雇用情勢は、製造業、非製造業ともに新規求人数が増加していることや、有効求人倍率が上昇していることなどから、持ち直している。

- 自動車メーカーの生産増加に伴い受注が回復しており、人手不足。（自動車）
- 外国人技能実習生が入国できておらず、作業員が不足しており、人手が足りていない。（電気機械）
- 新規出店の影響により、人手不足。（小売）

■ **設備投資** 「4年度は前年度を上回る見込み」 (全産業) 「法人企業景気予測調査」4年7-9月期

- 製造業では、「石油・石炭」などで減少するものの、「化学」、「情報通信機械」などで増加することから、全体では前年度を上回る見込みとなっている。
- 非製造業では、「不動産」などで減少するものの、「小売」、「電気・ガス・水道業」などで増加することから、全体では前年度を上回る見込みとなっている。

- 前年からの持ち越し案件や脱炭素化に向けた設備投資を実施。(化学)
- プロセスセンター等の物流拠点の整備を実施。(小売)

■ **企業収益** 「4年度は減益見込み」 (全産業) 「法人企業景気予測調査」4年7-9月期

- 製造業では、「生産用機械」、「金属製品」などで増益となるものの、「化学」、「木材・木製品」などで減益となることから、全体では減益見込みとなっている。
- 非製造業(除く「電気・ガス・水道業」、「金融業、保険業」)では、「小売」、「情報通信」などで減益となるものの、「医療・教育」、「運輸・郵便」などで増益となることから、全体では増益見込みとなっている。

■ **企業の景況感** 「『下降』超幅は縮小」 (全産業) 「法人企業景気予測調査」4年7-9月期

- 企業の景況判断BSIは、「下降」超幅が縮小している。なお、先行きは「上昇」超に転じる見通しとなっている。

■ **住宅建設** 「前年を上回る」

- 新設住宅着工戸数でみると、持家、給与住宅が減少しているものの、貸家、分譲住宅が増加していることから、前年を上回っている。

■ **輸出** 「前年を上回る」

- 輸出(円ベース)は、自動車、石油製品などが増加していることから、前年を上回っている。地域別では、中東欧・ロシア等などで減少しているものの、アジア、北米などで増加している。
なお、輸入(円ベース)は、石炭、原油及び粗油などが増加していることから、前年を上回っている。地域別では、中東、大洋州などで増加している。

3. 各県の総括判断

	前回(4年7月判断)	今回(4年10月判断)	前回比較	総括判断の要点
広島県	緩やかに持ち直している	持ち直している		個人消費は、緩やかに持ち直している。生産活動は、供給面での制約の影響がみられるものの、持ち直している。雇用情勢は、持ち直している。
鳥取県	持ち直しつつある	持ち直しつつある		個人消費、生産活動は、持ち直しつつある。雇用情勢は、持ち直している。
島根県	感染症や供給面での制約の影響がみられるものの、持ち直している。	持ち直している		個人消費は緩やかに持ち直している。生産活動は緩やかに持ち直している。雇用情勢は持ち直している。
岡山県	持ち直している	持ち直している		個人消費は、持ち直している。生産活動は、持ち直しつつある。雇用情勢は、緩やかに持ち直している。
山口県	持ち直している	持ち直している		個人消費は、緩やかに持ち直している。生産活動は、一部に供給面での制約の影響がみられるものの、持ち直している。雇用情勢は、緩やかに持ち直している。